

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270700257		
法人名	社会福祉法人白寿会		
事業所名	平戸荘グループホーム		
所在地	長崎県平戸市紐差町450番地		
自己評価作成日	令和6年10月5日	評価結果市町村受理日	令和6年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和6年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1 自然豊かな風景に囲まれており、ホール内も天気の良い日はあたたかな陽射しが差し込み和やかな雰囲気です。毎日新鮮な野菜や鮮魚を取り入れた食事や職員の手作りしたおやつを提供し、利用者様の誕生会の日や行事の際には、利用者様の希望のメニューを手作りで提供し大変喜ばれています。2 の方とのかかわりも重視し、地区総会や地区の掃除、消防訓練では地区の消防団と避難訓練を一緒に行っています。毎月、移動図書館訪問や友愛訪問により、利用者様とのコミュニケーションの場を持っています。3 感染予防に注意して季節ごとの景色を楽しむために定期的にドライブをし、気分転換を行っています。利用者様と職員と一緒に毎月の行事やレクリエーション、作品造りをし、活動的な場を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは自然豊かな平戸市紐差町に立地し、好天時には入居者が庭先を散歩したり、隣接する特別養護老人ホームの催しへの参加や、デイサービスセンターを利用する顔馴染みの知人と交流するなどホームでゆったりと過ごしながらか地域住民との関わりを継続している。食事は職員による手作りの料理を提供し、職員も入居者と同じテーブルで食事を摂りながらさりげない食事のサポートを行っている。入居者はコボウや玉ねぎ等の皮むきや、梅干しや干し柿づくりのほか、新聞紙たたみ、雑巾づくりを行うなど、入居者の残存機能を活かしながらかその方の楽しみごとや出番を見い出せるよう取り組んでいる。管理者は、家族や地域の方が安心して立ち寄ってもらえる場所として、また、入居者が安心して生活を継続できる場所としてホームづくりを行っていく意向であり、今後も更なる入居者支援に期待が持てるホームと言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念 事業所の理念を作成し、毎日唱和し、実践に役立っている。前年度より科学的介護を学習し白寿会の秩序ルールも作成し毎日唱和し組織として持続可能な活動を行えるように鍛錬している。	共用空間のフロアに法人理念及びホームの理念を掲示している。前年度より法人全体として「秩序ルール」を作成し、職員の具体的な行動規範とし周知を図っている。職員の「秩序ルール」の実践状況を毎月確認し、管理者と共に振り返りを行っている。朝礼時に職員が理念を唱和し、理念の周知に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	紐差町第3区の自治会に参加しており、地区の定期的な会合や回覧板の閲覧や地区の清掃には必ず参加したが、行事等は参加できる範囲で、スポーツ大会など、差し入れなど行って交流ができています。	ホームは紐差町第3区自治会に加入している。隣接する特別養護老人ホームの催しへの参加や、デイサービスセンターを利用する顔馴染みの知人と交流している。ピアノや尺八演奏のボランティアが訪れたり、紐差小学校区まちづくり運営協議会を通じて地域住民と関わるなど入居者が今まで住み慣れた地域での暮らしを継続できるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学希望時はできる範囲で行っているが、コロナ流行時以外は居室の見学をおこなってもらい、詳細はパンフレットや口頭にて説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、利用状況や苦情 事故 ヒヤリハットについて報告し、意見、質問などを伺っている。そうした意見をもとにサービス向上に努めている。開催月のコロナ感染状況を確認し、会議を別棟で開催したり、流行時期は書面会議を行うなど中止にならない工夫を行った。	運営推進会議のメンバーは地域住民、地域包括支援センター職員、事業部長、管理者で構成されている。ホームの活動報告、事故・ヒヤリハット報告等を行い、議事録に各委員より出された発言内容を残し、意見や助言を受けサービスの向上に活かしている。来年度には地域の自治会長にもメンバーに入るよう促す意向である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時に必ず市の福祉部より出席頂き、活動、取組みを報告し、行政機関の要望や判断等を伺っている。また、平戸市より介護保険班より、申請や変更になった事務手続きを確認している。マイナ保険証作成をしていない利用者様についても市民課と連携し名簿一覧表を提出しGH施設での出張作成を行ってもらった。	管理者は市の担当課へ処遇改善等加算や医療連携体制加算のほか科学的介護推進体制加算についても準備を始めており、制度上の不明点や確認事項について問い合わせアドバイスを受けている。現在、成年後見制度を利用する入居者はいない。管理者は介護保険更新や、生活保護手続き等で窓口に出向き、市と協力関係を築いている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設置しているが、毎月の委員会で意見があるときは出し話し合ったり、各部署で勉強会を行って、身体拘束は行わないとの決定事項のもとに職員も周知しケアの実践に取り組んでいる。	身体拘束を行っている入居者はいない。入居者の起き上がりの察知の為にセンサーを使用する方が3名おり、家族に使用方法の同意を得ている。9月には身体拘束・虐待について学習会を行っている。法人内に身体拘束・虐待防止委員会を設置し、身体拘束についてのマニュアル、指針を整備して職員へ周知を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、月1回の委員会も行えない時もあったが、グループホーム独自の勉強会を行って、意識向上を目指している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市社協などが開催する権利擁護に関する研修会に参加が困難だったため、ウェブの研修など独自で学習する機会を持つ努力を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規契約者の家族様へ契約書、重要事項説明書は読み上げ説明をし質問を受け理解や納得を得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会時に施設の現状や年間の行事、活動など事業報告を行って家族から意見を聞き、要望を取り入れ、家族との連携を密にしていますが、本人との会話などには電話にて会話ができるように配慮しています。面会時には感染防止に努め希望や要望などご意見をうかがえるように声掛けを行っています。	家族会を設けており、毎年5～6月の間にホームの取り組みや年間行事等について報告し、家族より意見や要望を聞くようにしている。「平戸荘だより」を定期的に発行し、運営推進会議議事録と共に家族へ送付している。感染防止に配慮し、家族との面会時間は15分としその際に家族に意見や要望等を把握するようにしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のグループホーム会議や各種委員会、拡大会議を行い、意見交換の機会を設け、グループホームからの要望等について対応している。毎月職員1対1でのミーティングを行い職員の意見や提案を聞き、業務に反映できるように努力している。	職員は上司と毎月ワンオンワンミーティングを行い、率直な職員意見を直接把握し、言葉づかい等日常的に注意が必要な部分の指導等、人材育成や職員のモチベーション向上に繋げている。会議や日常の申し送りで職員間のコミュニケーションを取り良好な関係ができています。職員は各種委員会に参加し、他の職員にも伝達して職員全体で共有を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社会福祉法人白寿会就業規則を基に各職種、職員の実績、勤務状況などを把握して昇給人員配置等については配慮している。 (キャリアパスシート)人員不足については、上層部と会議のときや面談時に伝え、検討してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で勉強会の年間計画を行って毎月1回は行って学習の機会を設けている。1昨年度から、科学的介護やBPSD消失研究会のトレーニングを受介護の質向上の研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平戸市福祉施設連絡協議会総会に参加し同業者との交流する機会を作った。平戸市介護支援専門員連絡協議会の活動や研修会などに参加し、サービス向上をさせていく取り組みに積極的に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当の施設の相談員や担当職員から情報収集を行い、初期の面談時に本人とのコミュニケーションを密に取り、傾聴の姿勢で接し、要望や困っていることなど確認し、全職員と情報共有、会議を行い希望に近い状態になれるように検討しながら施設生活を確保できるように努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナの流行を考慮しながら面会も必要時には電話連絡でなるべく希望に沿った対応を行っている。家族様が安心して相談できるような雰囲気や環境づくりに努め、常に家族様からの要望に耳を傾けるように対応を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズの把握、ご家族やケアマネージャーと密に情報交換を行い、又職員で今までの経験豊富な内容を情報交換し合い必要なサービスを見極めることが出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常に一部の家事の手伝いや、脳トレ計算、塗り絵、などでコミュニケーションを取りながら、七夕や福祉祭りの作品作りを職員と一緒にし、楽しく過ごして頂けるように支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の状況も考慮し、日頃の状態や病院受診時の内容を報告しながら、介護協力出来る様な事柄等伝えたり、ともに生活していた頃や良く話していた事柄など家族に聞き、面会時は家族との写真を撮影し居室に飾って、絆を大切に出来る様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との面会や親せき 友人や知人など感染症に注意し面会を行っている。本人が自宅への希望した場合、家族と連絡をし、自宅へ故郷訪問を行い、なじみの場所などに行き関係性を大切に出来るように支援している。	職員は入居者との日常会話の中からその方が昔働いていた場所や得意なことなどを聴き、また、家族からも情報を得ながら、入居者の馴染みの支援に活かしている。現在は一部面会を緩和し、また、デイサービスセンターを利用する顔馴染みの知人と交流するなど馴染みの人や場との関係継続に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人の個性を把握し、個人の性格や認知症の状態、身体機能に合わせ利用者同士が関わりをもてるように座席を配慮し、職員も利用者同志の言動に傾聴し、レクリエーションなどのゲームで集団で楽しめるようにより良い居場所を作りを行った。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されて数年が経過しても町で会ったら声を掛け近況を話したり、関係性を大切にしている。必要に応じては相談、支援に努めている。また、死亡退去された方の葬儀には必ず参列し、初盆には管理者がご挨拶に訪問している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	グループホーム会議で問題点を共有し、アセスメントを行い、ニーズを見出している。本人の意思確認が困難な場合には家族に尋ねたり気持ちを汲み取ってニーズを見出している。	前頭側頭型認知症の方などコミュニケーションをとることが難しい場合もあり、ケアを実践した結果からあらためてどのような支援が望ましいかを検討し、支援に努めている。担当職員を中心に入居者の意向や希望を把握し、高度難聴で必要な方には小ホワイトボードを用いて筆談し、情報を正確に伝えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や以前担当のケアマネジャーより生活歴、馴染の暮らしを情報収集しこれまでのサービスの経過を把握しアセスメントを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、バイタルチェックや身体状況、食事摂取状況、排泄状況のチェックを行い、現状の把握に努めている。又、利用者様の出来る事を活かせるように、野菜の皮むきや縫い物、洗濯干し、たたみ毎日使う新聞折り等を依頼して作業としても取り入れている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成に関して担当の利用者様に注目し、担当者会議やグループホーム会議で意見交換を行い本人や家族の望む暮らしができるように計画した。	担当職員を中心に入居者にモニタリングを行い、担当者会議で介護計画を見直している。日頃から課題点を抽出し、改善できる事項はないか職員と検討しながら家族の要望を踏まえ、職員間で意見交換を行い介護計画に反映している。入居者に変化がある場合は、随時変更して本人の状態に沿った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践は、結果は毎日のケアノートに記載、モニタリングも月1回記載し、利用者様に体調変化などある場合は個別記録に記入し職員で共有しながら実践や介護見直しを支援した。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態変化により眼科、歯科 耳鼻科 皮膚科など定期受診以外の受診も行っている。本人の希望を聞き、ふるさと訪問ドライブも行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節ごとにドライブにて、花見や海へのドライブ、自宅近くへのふるさと訪問行い、楽しみを持つことができるように支援している。友愛訪問もあり、大正琴や日本舞踊、尺八、ピアノ演奏など開催し交流を行うこともできている。毎月1回図書館訪問もあり、コロナ流行を考慮しながら紙芝居やエプロンシアター、読み聞かせなど行い、豊かな暮らしを行うことができています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人及び家族の希望を配慮し、かかりつけ医を決定しているが、今年度から家族への説明と同意を得て訪問診療に変更になった。異常な特変があればすぐに電話報告し、受診をするか、又は指示が出る。受診前、受診後家族に状況を説明し適切案医療を受けられるように支援している。	今年度より入居者は月1回のホームでの訪問診療を受診している。各種専門医療機関等を受診する場合は職員が同行して支援している。受診時の医師のコメントを記録に残し、家族にも報告している。薬剤師とも連携し、服薬管理に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設として特養に看護師が在中している事により、体調不良時や急変時の指示を仰ぎ利用者が適切に受診できる様支援している。又、いつでも相談できる関係を保っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は介護サマリーの提供と面会または電話連絡にて病院の多職種と情報交換、相談に努め、病院関係者との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	著しいADLの低下など介護が重度になった場合は家族にも現状説明し今後のケア方法を会議にて話し合う。食欲の低下などには補助食品を取り入れたり褥瘡悪化予防の為に車いすや臥床時は除圧を行う為の車椅子シートやクッションを使用し褥瘡予防の取り組んだ。	ホームで看取り支援は行っておらず、可能な限りホームでの介護支援を行い、困難になった場合は医師より医療的な説明を行ってもらい、家族の意向・希望を聴き、医療機関または系列の特別養護老人ホームと連携し、円滑に医療機関または系列の特別養護老人ホームへ移れるよう配慮している。入居者や家族にとって最善で穏やかな最期が迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は消防署の救命救急のAEDの講習を受け、緊急時に対応できるようにしている。また、職員は吸引の勉強会や夜間急変時の勉強会を行い、実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	夜間の呼集訓練や夜間想定避難訓練を開催している。火災を未然に防ぐための対策としては、消化器の使用方法や補助散水栓の使用方法について勉強会を行ったり、防災カーテンを使用したり、コンセント部などの細目な清掃に努めている。	今年度は令和6年9月27日に隣接する特別養護老人ホームの夜間避難訓練に合わせて当ホームの訓練を実施している。訓練実施記録には反省点や職員の到着時間、避難完了時間も記載するなど詳細が分かりやすく、検証事項が次の避難訓練に活かせる内容となっている。地区消防団第10分団が参加した訓練も実施されている。BCPを策定し、管理者が訓練に参加していることが研修受講証明書より確認できる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム内での勉強会で接遇についての基礎的内容を学習し言葉遣いなどの対応について学んだり、毎日の秩序ルールの唱和の中で接遇についての注意事項を意識して読み上げている。また、尊敬の気持ちをもって方言を遣い、親しみやすく安心できるような対応を行っている。	職員は本年4月に「介護における接遇とは何か」の研修に参加している。接遇マナー5原則（挨拶・声掛け・言葉づかい・笑顔・態度）及び虐待・不適切ケアのほか、科学的介護に関する研修についての研修に参加し、研鑽に努めている。入居者の写真使用について、家族より同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人にわかりやすく選択肢ができる事業掛けを行い、希望を話せる様な雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者、1人1人の性格や状態に応じて、ゆっくりとしたペースで生活が出来る様に、無理をしないように支援に努めている。食事時間も本人の状態に応じて自宅で過ごしているような状況を作ってゆとりある暮らしの実現を考え対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時など洗面所の鏡の前で自分で髪を整えたり、美容師資格を持った職員により、ボランティアで散髪も定期的に行っている。1人1人の個性にあった衣類を毎日コーディネートしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際のテーブル拭き、お茶入れ、配・下膳茶碗洗い等を利用者様にも依頼している。誕生会ではメニューを本人から聞き、食べたいものを取り入れている。野菜の皮むきや牛蒡そぎなど手伝ってもらったり、梅干しづくり、らっきょ漬けなど、簡単な作業を行っている。	入居者の食事形態、嗜好、アレルギーを確認し、その情報を食堂内に掲示し職員間で共有している。ひな祭りや敬老祭りなどの行事食のほか、忘年会やクリスマス会を開催して特別食を提供している。誕生日会や正月のほか入居者の希望に応じておやつにおはぎを提供し、担当者がその様子を撮影して家族に送付しており、家族の喜びに繋げている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各個人に合った形態、量、嗜好を取り入れながら管理栄養士のたてた献立により、バランスのとれた食事を提供している。又、栄養補助飲料やゼリーやいろいろな種類の飲料（コーヒー、ジュース 甘酒 ヤクルト、紫蘇ジュース）を提供し、1人1人の好みに応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	緑茶にて毎食後の口腔ケアを行っている自力では困難な方には介助行ない、義歯は外して洗口腔内の清潔に努めている。又、義歯洗浄を用い清潔保持に努めている。口内炎等ある場合には主治医の指示にて軟膏塗布にて早期に治癒できるように支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全入所者が日中はトイレにて排泄されている。訴えない方については本人の排尿間隔を推察しながらトイレ誘導行い、尿汚染が無いように取り組んでいる。また、夜間でもポータブルトイレで排泄可能な方は介助行ない、自立支援にむけた支援を行っている。	夜間はポータブルトイレを利用する方がおり、自室での排泄を支援している。尿意がある方には職員が見守り、トイレでの排泄を支援している。入居者個々の排泄パターンに応じ、個別に声掛けしてトイレまで誘導を行っている。オムツの使用につき、家族への経済的負担を考慮し高額にならないよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操や上下肢運動等を行い、腸の蠕動運動を促進し排便を促している。起床時にお茶、10時には牛乳、甘酒 紫蘇ジュースを提供している。排便困難時には水分摂取量を増やし、果物、さつまいもを摂取して頂き、便秘予防、改善に努めている。なるべく下剤を用いず排便コントロール出来る様に目指している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めしめず、個々にそった支援をしている	薬湯やゆず湯など季節感を味わって頂き家庭的な雰囲気を楽しんでもらえるように支援している。体調、体力など本人の状態により回数や時間帯は職員が決めているが、本人の身体状況や希望にて合わせて、シャワー浴、足浴 清拭を行っている。	週2回午前中の中の入浴を基本として支援しており、病院受診等で入浴できなかった場合は午後の中の入浴にも対応している。本人の状態に応じて清拭やシャワー浴、足浴のほか、入浴回数を増やすなど対応している。入浴を拒否する方には無理強いせず、清拭の実施や翌日に入浴を支援している。	冬場は脱衣所に暖房器具を設置しヒートショック対策を講じているが、脱衣所が広いので職員の体感だけではなく、室内外の温度差を目視して把握・管理し支援に取り組むことを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、傾眠の場合等は夕食後もホールで過ごして頂き遅めに床につかれたり本人のその時の状況や希望に応じて支援している。夜間、不眠時は話を聞いたり温かいお茶と一緒に飲み安心して休んで頂けるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診などで内服薬が処方になった場合は口頭で説明し申し送り帳を活用するなどし、各自が副作用の出現に注意し、症状の変化にも気づく事ができるように努めている。又、服薬介助時には2人での氏名確認により誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	故郷訪問をして懐かしい場所へ出かけている。また、季節に応じて花見や海へのドライブ、おやつパーティーなど毎月行事を行い気分転換が図れる様支援している。また、誕生月の方には嗜好品を尋ねメニューを取り入れ楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様全員で施設周囲の散歩を行って、日光浴をしたり、利用者のみんなで季節の花見やドライブに外出し楽しんでいる。個人にあわせふるさと訪問も行っている。又、家族との外出の機会は設け、楽しく過ごして頂けるように配慮している。	今年の夏はリフト付きの車両で、車いすの入居者を含む全入居者と外出する機会があった。入居者が好天時にはホームの庭先を散歩して景色を眺めたり、屋外のベンチに座り日光浴をしながら会話を愉しむなどして過ごされている。花壇に花を植えてもらうなど入居者の出番づくりを支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日用品など買い物等は希望有れば随時検討している。本人が購入希望するときは高価な物の場合はご家族にも相談の上購入を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ利用者様の状態を電話で報告したり、時間があれば本人と電話で話したりと配慮している。携帯電話をお持ちの方には、自由に連絡できるように出来る限り配慮している。年賀状は毎年郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、食事の際には音楽を流して和みの空間を心がけている。また、居室には本人の写真やバースデイカード、家族様からのプレゼントを飾るなど自分の空間として楽しんでいる。	共用空間には季節の花を飾ったり、食事の際に音楽を流して、入居者が穏やかに過ごせるよう空間づくりがなされている。ホームの要所は消毒液を用いて清掃したり、拭き掃除により清潔保持に努めている。玄関には靴の消毒マット、体温測定、消毒液を設置し、清潔感のある空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	既に入居された方は自分の場所を持っておられ、新しく入居された方はとまどいがあるため、職員が配慮して、トイレなど目印や声掛けなど対応し慣れない施設生活では疲れやすいので居室にて過ごしやすく支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や物を持ちこまれた方もいる。花を飾ったり、プレゼントを飾っておられる。各部屋に家族写真も飾り、安心して過ごされている。	居室のベッドについて、転落する恐れのある方は高さを調整し低床にするなど配慮している。ポータブルトイレの配置は本人の状態に配慮し、立位が保てる場所に設置している。持ち込み品に関し、特に制限は設けていないが、電化製品の電気使用量は徴収するようにしている。宗教上の持ち込みも可能で信仰心に配慮し安心して過ごすことができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のクローゼットに衣類の表示はしているが、収納できる方は一緒に行ったり、入浴時の衣類の準備など本人が行える場合は職員と確認しながら行っている。		